
運命の物語～テイルズオブデスティニー～

富山雪兎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

運命の物語〜テイルズオブデスティニー〜

【Nコード】

N6318Z

【作者名】

富山雪兎

【あらすじ】

作者の趣味全開でお届けするTOD2の再構成オリ主物です、苦手な方はブラウザバック推奨。
作者の初投稿の作品のためクオリティーには期待しないでいただけるとありがたいです。

第1話 物語の始まり

意識を失うなんて経験をしたのは初めてだな。真っ先に思い浮かんだのはそんな感想だった。確か自分は、朝目が覚めてカーテンと窓を開け空気の入れ替えをしていたはず。

久しぶりの快晴に午前は図書館にでも出かけようと思い、ふと、日差しが強く感じたため思わず視線を空へ向けると視界が真っ白に染まり意識が遠くなった。

目覚める前までの自分の行動を思い返し、彼女はゆっくりと目を開き辺りを見渡す。

意識を失う前に見たのが眩しいくらいの日差しだったためかぼんやりとしか見えないが、僅かな光源しかない薄暗い室内を見渡す。乱雑に置かれた道具の数々を見ると使われなくなって久しい倉庫だろうか。肌を感じる湿った空気と肌寒さにおそらく地下だろうと次々と現状の把握を進めていると、部屋の外から言い争うような声と複数の足音が聞こえ彼女は咄嗟に部屋の片隅に置かれた木箱の影に身を隠した。

騒動の原因はだんだん近づき、ガチャガチャと重々しい音を立て扉が開いた。

「ここで大人しくしている！」

声と同時にドサっという音が聞こえついでに再びガチャリと扉が閉められる。

その後が続くカチャンという軽い音は鍵を閉めた音だろう。

あれ、もしかして私ここから出るチャンス逃した？

自分でこの倉庫に着た記憶がない以上誰かがここに運んだのだろう

が、そうなる何のために運んだのかわからない。ただ、録でもない（拉致誘拐）目的なのは確かだ。唯一の出口を塞がれてしまい少し焦りを覚える。

「痛った、くそっ、ここから出せえ！」

そんな声とともにドンドンと激しく扉を叩く音が聞こえてきた。

「うゝん、ロニっては何やって・・・あれっ、ラグナ遺跡に巨大レンズを

取りに行ったけどレンズは割れちゃってアタモ二神団に捕まって・

・そ

れからどうしたんだっけ？」

「つかあゝ全くお前はのんきでいいねえ、見ての通り牢屋にぶち込まれたんだよ。多分ダリルシェイドだろうな」

聞き覚えのある声に名前、地名に一瞬思考が止まる。

ロニ？ラグナ遺跡？ダリルシェイド？アタモ二神団って何かむちゃくちゃ

聞き覚えがあるんですけど！

心の中で絶叫しつつまさかと思い木箱の影からそつと彼らの姿を伺うとそ

こにいたのは金髪のツンツン頭をした小柄な少年と銀髪色黒な長身の青年

の2人組。・・・というかぶっちゃけテイルズオブデスティニー2の主人公カイルと兄貴分のロニだった。

やっぱり、カイルとロニじゃん！って事は私異世界トリップしちゃったの？

「っ！おい、そこにいるのは誰だ！」

事態の突拍子のなさに思わず脱力しズルズルとへたり込むとその音に気がついたロニが鋭い声をあげる。

「えっ、俺達以外にも誰か捕まった人がいるの？」

「カイル下がってる！悪名高いダリルシェイドの地下牢に入れられてるよ

うな奴だ、きっとロクでもない奴に決まってる！」

姿を見てもないのに随分な言われように機嫌が急降下する。カイルを護ら

なければという警戒心故の発言なのはわかる、でも今の発言そっくりその

まま自分達にも当てはまるってわかってるのかな？

とはいえいつまでも隠れている訳にもいかず（隠れ続けて殴りかかられたら困る！）2人の前におずおずと出て行く。

「女・・・の子？」

「ラグナ遺跡で会った女の子といい今日はつくづく女の子に縁があるみた

いだな」

戸惑ったようなカイルの声と、そんなカイルを後ろに庇うロニの毒気を抜

かれたような声に苦笑を浮かべた彼女を見て、カイルが人好きのする表情

で近づいてくる。

「君もアタモ二神団の兵士に捕まっちゃったの、俺はカイル・デユナミ

ス、こっちはロニ・デユナミス、よろしくね！」

にこやかな笑みとともに右手を出してくる。ゲームで抱いたイメー
ジその

ままの行動をする彼に彼女は笑みをこぼし

「私はユウ、よろしくねカイル」

カイルの手を取り挨拶を返したのだった。

第1話 物語の始まり（後書き）

取り合えずは自己紹介まで、仮面の彼の登場は次回になります

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6318z/>

運命の物語～テイルズオブデスティニー～

2011年12月21日01時45分発行